

# 教員養成フラッグシップ大学構想

# 工程表

2022年度

2023年度

2024年度

2025年度

2026年度

学類・学部

1年生：ブリッジング科目(教職イメージの獲得\*1)の実施。  
双方向遠隔授業システムを活用した授業の試行。

2年生：教育ブリッジング実践Iの実施\*2。  
ブリッジング科目(比較と対比から深い洞察力を得る\*3)の実施  
双方向遠隔授業システムをさらに活用対象にした授業を展開。

2年生：教育ブリッジング実践Iの実施  
3年生：教育ブリッジング実践Iで得た問題意識をもとに附属学校園での教育実習の実施。  
ブリッジング科目(国際化とSDGs\*4)の実施。

<完成年度>  
2年生と4年生：教育ブリッジング実践I及びIIの実施\*5。4年生がリーダーシップをとって活動を行う体制を構築。ブリッジング科目の妥当性を検証。

教職大学院

金沢大学：「探求」と「共生」を両輪とした新教職大学院の改組準備。  
富山大学・金沢大学：教育ブリッジング領域科目を開発する上でのフィールドの開拓。

金沢大学：2024年度の改組の具体的な検討と設置申請。  
富山大学・金沢大学：教職大学院における教育ブリッジング領域の具体的なプログラムを開発。

金沢大学：フラッグシップ構想に則った新教職大学院へと改組し教育ブリッジング領域を設定。  
富山大学：教職大学院の中に教育ブリッジング領域を設定し、新たな領域科目を設定。

<完成年度>  
教育ブリッジング領域に含まれる授業や活動の妥当性を検証。

附属学校園

附属学校園の研究遂行にあたり、学類・学部学生・院生が活躍できる場の検討。

附属学校園の教育研究に学生や院生を参加させる枠組みを計画し、教科指導法の授業の一環として一部学生を試行的に参加させる。

附属学校園の教育研究に学生や院生を参加させる枠組みをさらに拡充し、取得免許や実習希望校種にあわせて、より多くの学生を参加させる。

附属学校園と学類学部教員・学生が協同で教育研究を行う体制を構築。

地域社会  
NPO・企業

2023年度より始まる教育ブリッジング実践Iのプログラム開発と学生が出向いての活動の詳細の決定。  
すでに実施が予定されている4つのプログラムについて、関係機関と具体的な活動内容を明確化する。

学類・学部2年生と教員とで、地域に教員と学生が出向いて様々な活動を行う教育ブリッジング実践Iを試行的に実施。地域NPOや地域企業と相談しながら、学生が活動できる領域を開発していく。

学類・学部2年生(2023年度入学生)と教員とで、地域に教員と学生が出向いて様々な活動を行う教育ブリッジング実践Iを引き続き実施。地域NPOや地域企業と相談しながら、学生が活動できる領域をさらに開発していく。

4年生がリーダーシップを取り、地域のNPOや企業などと協働しながら活動の主体となって、プログラムの企画運営を行う。そこに2年生を参加させ、教員がコーディネートしなくても活動が円滑に行われるような体制を構築する。

効果の検証

県教育委員会、民間NPO、子どもにかかわる施設代表者などからなる本プログラムの評価検証委員会を設置する。

評価検証委員会に2年間の実施効果についての評価を依頼する(中間評価)。

評価検証委員会に4年間の実施効果についての評価を依頼する(最終評価)。

4年間の実践を踏まえ、また評価検証委員会の評価結果を受けて、改善すべき点を明確にしたうえで、次の4年間の実施計画を立案する。

\*1~\*5の説明は次頁参照

# プログラム実施における年度計画

## ○2022年度

### \*1 教職イメージを獲得するための教育ブリッジング科目を1年生に提供。

「教職とこれからの教育」「教職と学校」  
「野外体験活動」「インクルーシブ教育基礎  
演習Ⅰ・Ⅱ」

## ○2023年度

### \*2 学生が地域に出向き活動を行う「教育ブリッジング実践Ⅰ」を2年生に実施。

→ 大学教員が、教員の専門性を活かして地域の様々な団体や施設などに出向き、学生が活動できるフィールドを開発し、そこに学生を巻き込んでいく。

### \*3 比較と対比から深い洞察力を得るための教育ブリッジング科目を2年生に提供。

「未来をつくる教育課程」「現在をつくる教育課程」  
「小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ」「石川の教育実践Ⅰ・Ⅱ」  
「富山の教育実践Ⅰ・Ⅱ」

## ○2024年度

### \*4 国際化とSDGsなど現代的教育課題に対応した教育ブリッジング科目を3年生に提供。

「遠隔教育実践論・演習」「中学校・高等学校の特別支援教育Ⅰ・Ⅱ」「国際化と学校教育Ⅰ・Ⅱ」  
「SDGs教育実践演習Ⅰ・Ⅱ」

## ○2025年度

### \*5 2年生と4年生が協同して地域に出向き、活動を行う「教育ブリッジング実践Ⅰ及びⅡ」の実施。

→ 2年時に活動した内容と同じプログラムに4年生が再度関わることにより、4年生がリーダーシップを取り、活動の企画・運営を行う。2年生は4年生の企画・運営するプログラムに実働要員として関わり活動する。

→ 大学教員は、これらの活動をスーパーバイズする立場で関わる。

## ○2026年度

### 4年間の活動の総括と評価検証委員会の指摘を受け、5年目以降の計画を立てる。